

関西大学対抗テニスリーグ戦 一般注意事項

1. ボールについて
2. ルールオブコンダクト
3. 服装について
4. オーダーについて
5. オーダーにおけるペナルティについて
6. トイレットブレイクについて
7. レストの時間について
8. ベンチコーチ
9. 質疑権所有者
10. ペナルティの基準
11. MTO・MTについて
12. 物資の供給
13. 結果報告用紙について
14. ヒンダランス
15. アップについて

【試合形式】

- ・ 男子・女子1部から4部は各部6校により総当たりリーグ戦を行い、その後入れ替え戦を行う。5部リーグはリーグ戦及び上位校によるトーナメント方式。入れ替え戦については、各部6校で総当たりリーグ戦の後、上部6位対下部1位、上部5位対下部2位で入れ替え戦を行う。1部リーグの上位2校をもって大学王座出場大学とする。
- ・ 出場選手は関西学生テニス連盟登録選手かつ登録年数・在学年数が共に4年以内の者。
- ・ 試合ポイント数は男子9（複3・単6）、女子5（複2・単3）とする。
- ・ 試合形式は単複ともにベストオブ3タイブレークセットマッチとする。

〈ヒートルールについて〉

今大会では、ヒートルールを適用する。会場での気温が35度以上になった場合、または開催地のWBGTが31度以上になった場合は、最終セットの前に10分間のコート外での休憩(セットブレークの120秒を含む)が認められる。この休憩では、トイレ(トイレットブレークに含まれない)、着替えはできるが、ベンチコーチ以外からのコーチングは受けることができない。WBGTがない場合は、Yahoo天気アプリの現在地の気温を見て相手校の質疑権所有者と相談して話し合い、WBGTがある場合は、ひなたのベンチの上に置き、判断する。

会場での気温が40.1度以上になった場合、または開催地のWBGTが32.2度以上になった場合は、試合の中断及び開始の遅延を検討する。進行中の試合を中断する場合は、セット終了時とし、開始前の試合についてはこの基準が下回るまで開始を遅らせる。

気温を測る時間は、試合開始の30分前、開始以降は3時間毎である。

1部についてはトレーナー及びレフェリーが気温の測定を行う。2～5部についてはホーム校が温度測定方法(温度計を用いるのか、どこの气象台の発表を参考にするのか等)を決め、それを相手校の主将主務または質疑権所有者に試合開始までに伝える。気温が上記の水準を上回った場合には、相手校の主将主務または質疑権所有者の確認を得てはじめて、ヒートルールが適用される。

- ・ 試合は原則オーダー順位の低い試合から行う。また複数コートに同時に試合が入る場合は、オーダー順位の高い試合からコート番号の若番に割り振ること。
- ・ リーグ戦では勝敗が決定しても打ち切りは行わない。ただし、5部リーグ決勝トーナメント、入れ替え戦は勝敗が決定した場合、打ち切るものとする。
- ・ リーグ戦において勝ち点が並んだ場合は以下に従って順位を決定する。
 - ② 2チームが同率になった場合…直接対決の結果で順位を決定する。
 - ② 3チームが同率になった場合…**総勝利率**、取得セット率(不戦勝の試合のセット数は考慮しない)、取得ゲーム率の順で順位を決定する。

1. ボールについて

使用ボールはDUNROP FORTとし、1部は9・11とし、2部以下はファイナルセットチェンジとする。

基本的に2球使用で行う。

又、タイブレークは1ゲーム分として換算し、ロストに対しては、当該ゲーム数に応じてニューボール、もしくはユーズドボールを紛失した個数分だけ補充する。(ルールブック：P.5 6 Q9参照)

2. ルール・コードオブコンダクト

ルールは、「JTAテニスルールブック2022」テニス規約に基づき、コードはJTAルールに基づく。

主な注意点

【タイムバイオレーション】

ポイント間の25秒、エンドチェンジ間の90秒、セット間の120秒などの決められた時間を、不注意により超えてしまう場合に課される。

よく見られる事例として、各セット第一ゲーム終了時にベンチに座ることがあるが、これにはタイムバイオレーションを適用する。

1回目 警告

2回目以降 サーバーはフォールトが科される

レシーバーはポイントペナルティが科される

【コードバイオレーション】（ルールブックP154参照）

1回目 警告

2回目 1ポイント失う

3回目以降 その都度1ゲーム失う

特に起こりやすいもの

8) ゲームの遅延, 10) ボールの乱用, 11) ラケットや用具の乱用

12) 言葉による侮辱, 17) スポーツマンシップに反する行為

※雨天などでの中断した場合、SCUが中断時間と再開時刻を把握しておくこと

中断してから再開するまでの時間が

15分未満→アップなし

15分以上30分未満→3分アップ

30分以上→5分アップ

8) ゲームの遅延（ルールブックP152参照）

以下の場合、ゲームの遅延としてコードバイオレーションが課される。

- ・ ” Let’ s Play” の指示から25秒以内にプレーを開始しない。
- ・ タイムバイオレーションが課された後、25秒以内にプレーを開始しない。
- ・ メディカルタイムアウト終了後、30秒以内にプレーしない。
- ・ トイレットブレイクや、ラケットを取りに行くなどでコートを離れ、規定の時間内に戻ってこない場合。
- ・ 手当を受けられない症状（主に筋けいれん）で規定時間内にプレーができない場合。

※タイムバイオレーションとコードバイオレーション（ゲームの遅延）の違い

タイムバイオレーションを科された直後に25秒以内にプレーを開始しない場合は、コードバイオレーション（ゲームの遅延）となる。

3. 服装について

(1) 選手の服装はテニスウェアであれば色の指定はない。

しかし、試合中のウォームアップウェア、トレーナー、スマートウォッチ(電源を切った状態でも)の着用は認めない。

ただし、試合中のベスト、セーター、カーディガンの着用は認める。

(2) ロゴは「JTAテニスルールブック」に基づき、違反ロゴに対するテープの使用は認めない。

(3) 大学名の商業ロゴについては団体戦のみ大きさの規定はない。

(4) **インナーの着用**

インナー(コンプレッションウェア)の着用は認めない。ただし、医師の診断書の提出があった場合、インナーの着用を認める場合がある。その場合は事前に学連にメールを送ること)

- ・ サポーターは可とする。
- ・ アームカバーは禁止とする
- ・ 出場選手以外のインナー着用は可とする。(SCU, ボーラー, 応援, ベンチコーチ等)

【服装に関するルール】

- ・ オーダー交換時はゲームウェアまたはウォームアップスーツを着用しなければならない。
- ・ ウォームアップスーツのチャックは上まで締め切っておく。(中に着ている物が見えないようにする)
- ・ 試合前のプラクティス及び試合時の服装はゲームウェアとする。(プラクティスの際はウォームアップスーツの着用は可)

* 違反した場合は直ちに服装を正す、あるいは正しい服装に交換すること

(服装違反が、オーダー交換時に起こった場合には全試合に応援に対するコードバイオレーションを、試合開始以降に起こった場合には該当選手にコードバイオレーションを課す)

4. オーダーについて

試合開始式時に、学連提出用と相手校提出用の2枚を用意し、整列する。

※単複分けてオーダー交換を2回行う。シングルのオーダー交換は、ダブルスが全試合終了後直ちに行う。

両校主将挨拶時に相手校提出用は相手校へ、学連提出用については試合開始式を行っている学連(学連不在の場合:式次第)にその場で手渡す。

なお、コート申請時間等の特別な事情を除き、

試合開始時刻は原則2~5部も1部と同様に

9時～プラクティス

10時～試合開始

とする。

5. オーダー、オーダー用紙のミスへのペナルティについて

(1) オーダー規約に基づかない順位で発表されたオーダーに関しては

- ・その誤りのあった対戦を没収(単複どちらのオーダー交換時も共通)

例) 本来、A・B・Cの順で固定であったオーダーを、誤ってA・C・Bの順で提出し相手校に提訴された場合

→C・Bの試合を没収、提出した大学側の2敗となる

注：オーダー規約違反に関しての提訴は、複・単共にその試合の終了までとする。

注：主将・主務・質疑権所有者以外からの提訴は受け付けない。

(2) 記入ミスについて

例) 部印がない、氏名・大学名の漢字が間違っている場合など(違う大学名が書いているなどは除く)

→特に罰則はない

(3) オーダー交換時に学連提出用、相手校提出用オーダーのどちらかがない、またはどちらもない場合

→そのオーダー交換における該当試合をすべて没収とする。

(4) オーダー交換時に試合に出場する選手がサービスラインに整列していない場合

→該当選手は1ゲームとトス権を失う

(5) チームの代表者(主将)がサービスラインに並んでいない場合

→全試合没収

* チーム代表について主将以外の選手が代表者となる場合、学連にオーダー交換開始までにその旨を連絡すること。

(6) オーダー交換時に部員全員が遅刻した場合/チーム代表者不在の場合

→全試合没収

①オーダー用紙に関する注意

- ・学連指定のオーダー用紙に従って、組・選手名を記入。この際ダブルスについても、フルネームで記入すること。
- ・オーダー用紙・封筒には部印を押すこと
- ・オーダー用紙の訂正箇所にはチームの代表者の印を押すこと。オーダー交換成立後の変更は一切認めない。

②オーダー交換時の注意

- ・チームの代表者及び出場選手は必ずオーダー交換に出席すること。
- ・チームの代表者と出場選手はサービスラインに整列し、その他の部員はベースラインに整列する。
- ・既定の団体戦本数に対して、選手数が不足している場合は、必ずオーダー順位の上位から選手を割り振ること。

③オーダー順位

- ・ 関西学生リーグ用ポイントランキングを参照すること。（インカレ終了後にホームページに掲載）
このポイントランキングは、春関、インカレ、夏関の結果をもとに作成する。（チャレンジと新進は含まない）
- ・ オーダー順位に関しては、シングルスはランキング上位から、S1、S2…とオーダー順位の高いものを割り振ること。ダブルスの場合はペアのランキング合計が小さいペアから、D1、D2…とオーダー順位の高いものを割り振ること。
- ・ ランキングが同順位またはペア合計が同率の場合、選手の入替は自由とする。
- ・ ダブルスのポイント保持者と非ポイント保持者がペアを組む場合、非ポイント保持者のランキングは1000位として計算する。

6. トイレットブ레이크について

（男女共通） 1試合につきシングルス1回、ダブルス1組2回、トイレ（女子の場合：着替えも）を理由に原則としてセットブ레이크時に理にかなった時間内（基本的には5～7分）でとることができる。

（ベンチコーチ）

選手と同じ時にトイレットブ레이크をとることができる。この場合は、選手と共にトイレに行くことができる。

ベンチコーチのみのトイレットブ레이크については、回数制限を設けないが必ず相手校のSCU、あるいは質疑権所有者がついていくこと。

しかし、トイレットブ레이크中におけるコーチングは警告の対象とし、トイレットブ레이크中に観客等の第三者と話した場合はベンチコーチに戻ることができない。又その後の当該試合のベンチコーチの補充もできない。

注：ペア2人が同時にトイレットブ레이크を取った場合、1回とカウントする。

注：ウォームアップ中も試合中と同様、回数に数える。

注：トイレットブレイクにはコートレフェリーがついていく。学連がいない試合の場合、トイレットブレイクを取る選手には、その選手の相手校のSCU、あるいは質疑権所有者がついていき、外部からのコーチングなどがないかどうか確認すること。

注：トイレットブレイク終了後の余りの時間はレストとして使用できない。

注：本当に緊急の場合にはその選手のサービスゲームの前に緊急トイレットブレイクを認める。

※認められた回数 of トイレットブレイクを使ってしまった後にトイレに行く場合は、ポイント間25秒、エンドチェンジの90秒、セット間の120秒を使うことになる。この時間を超過した場合は、コードバイオレーションが課される。

7. レストの時間について

レストの時間についてはダブルスからシングルスを行う為、以下の通り定める。

試合時間 60分未満 : 30分

60分以上90分未満 : 40分

90分以上 : 60分

注：レストの時間はシングルスの試合の有無に関わらず、ダブルスを行った選手全員に確認する。

8. ベンチコーチ

エンドチェンジ間の90秒、セットブレイク時の120秒間にベンチコーチから選手はコーチングを受けることができる。(各セット1ゲーム終了後、またタイブレイク時のエンドチェンジ間ではコーチングをしてはならない。)

ベンチコーチは部員（出場資格を有する者、男女を問わない）・監督の他、ベンチコーチ登録名簿に記載されている者が行うことができる。

ベンチコーチのスマートウォッチ・スマートフォンの持ち出しは禁止とする。

ベンチコーチの交代は自由とする。交代の際は、抜ける人及び新しく入る人の両者が、SCU並びにコートレフェリーに伝えた後入ることができる。又交代のタイミングはコーチングができるタイミングとする。

ベンチコーチに対するバイオレーション

1試合の累計でカウントする。（ex. D1とD2のバイオレーションは別とする）

1回目、2回目警告、3回目退場とする。又、退場した場合その試合のベンチコーチは認められない。

ベンチコーチに対するコードバイオレーションが課される主な場合

・エンドチェンジ間（1ゲーム目終了時とタイブレーク時を除く）とセット間以外の時に、選手にコーチングをする。

・試合中に学連（学連のいない試合では質疑権所有者）、審判以外の人と話す、あるいは接触する。

・インプレー中にベンチから立ち上がる。

・パラソルが設置されている試合で、エンドチェンジ間（1ゲーム終了時とタイブレーク時を除く）とセットブレーク以外の時に、パラソルを開く。（選手からの申し出により、パラソルの使用を禁止する場合もある）

・ベンチコーチ登録されていない、部員、監督、部長以外の者がベンチコーチに入った場合。

・ベンチコーチは必ずテニスシューズを着用しなければならない。（試合開始後に違反していた場合、警告を課す）

9. 質疑権所有者

①質疑権所有者の定義

・ 質疑権所有者…大学を代表して学連に質疑する権利を有する。7/30のルール講習会に参加した者のみ権利を保持する

ジャッジ等の事実問題でもめた際にはコートに入ることはできない。

②質疑権所有者の役割

1. 学連が会場で運営を行っている場合（1部リーグ、全ての入れ替え戦）

・ 試合に関するルール上の質疑(選手のプレーや応援、ベンチコーチ等)

2. 学連による会場運営が行われていない場合

・ 試合中の法的問題に対する対処(事実問題に関しては審判が対処)（事実問題と法的問題の違いについてはルールブックP.142を参照）

・ 選手への物資の供給

・ 必要があれば、ベンチコーチ・応援のコード違反に対してペナルティを課す。

③注意事項

・ 試合中に起きた法的問題については中立の立場で、公平に対処する。

・ 試合中の事実問題について判定する権利は与えられない。(事実問題に関しては審判が対処)

・ ルール講習会に参加した者のみ質疑権所有者を務めることが出来る。(1大学につき男女各2名まで)

・ 質疑権所有者が対処できない問題が起きたときは、学連担当者まで電話で質疑すること。

・ **相手校のベンチコーチや応援に対してコードバイオレーションを取る際は、必ず学連に電話で連絡すること。**

各主将・主務は試合前、および試合進行中に質疑権の所在をコートレフェリーに明らかにしなければならない。

選手、ベンチコーチ：主審にそのプレーに対する判定に質疑することができるが、レフェリー(コートレフェリー)に対して、抗議することはできない。ジャッジの最終決定権はSCUIにあり、それに対して質疑する権利はあるが、抗議する権利はない。

10. ペナルティの基準

JTA公式ルールブックのコードオブコンダクトに準ずる。主な点は、ルール講習会の資料や本資料2. コードオブコンダクトを参考にしてください。

①応援に対するコードバイオレーション

ペナルティについては、以下の通りとする。

1回目：警告

2回目：応援拍手のみ

3回目：当該コートのみ応援禁止(このペナルティはその対戦の間のみとする)

4回目以降：全コート応援禁止(このペナルティはその対戦の間のみとする)

以上の注意・警告を与えられてもなお良識を欠くと判断されるような応援が続く場合には、学連内で会議を行いさらに新たな罰則を科す可能性もある。

②応援に対するコードバイオレーションが課される主な場合

- ・プレーが始まってからも応援を止めない。またはインプレー中に応援をする。
- ・連呼や応援歌を行う(コロナ感染症対策として一律禁止とする)

- ・ 応援が選手と接触したとき（ex. 選手に物資を渡す）。（学連がない試合で質疑権所有者が接触するのは可）
- ・ コーチングとみなされるような応援・仕草など
- ・ ボーラー、SCUが試合中に自校の応援に参加した場合
- ・ 野次などの不正な応援に対するペナルティ

チーム戦における応援妨害や不正応援

選手のプレーを妨害する応援や、他人に不快感を与える応援については、主将・主務・質疑権所有者の提訴があった場合、コートレフェリー又はレフェリーの判断（不在の場合、電話で学連の判断）でチーム戦での妨害応援（パルチザンクラウド）を決める。

又、限度を明らかに超えていると判断した場合は、提訴がない場合もペナルティを課す場合がある。

注：OB・OG、その他の方の応援もその大学の応援としてみなすので、各大学が責任を持って説明を行うこと。

注：道具（太鼓・メガホン・旗など）を使っでの応援は一切禁止とする。

11. メディカルタイムアウト・メディカルトリートメント

(1) メディカルタイムアウト（MTO）

試合中（ウォームアップを含む）の怪我や体調不良のため、トレーナーの応急手当が必要な場合、チェアアンパイアを通じて、トレーナーを要求することができる。原則として、次のエンド交代時、セットブレイク時にメディカルタイムアウト（MTO）をとることができる。緊急を要する場合には直ちにMTOをとることができる。

MTOはトレーナー又はドクターの診察が終了し、実際に手当を開始した時に始まる。状況によっては、コート外でMTOが取れる。**MTOは原則として3分を超えてはならない。**

1 部位の症状につき1回のメディカルタイムアウトが取れる。熱中症に関する症状は、1試合につき1人1回だけMTOが取れる。怪我の症状が他の部位にも影響して発症した場合は、(同時に2カ所以上で発症した怪我でも、関連性があるもので原因が一つと判断されれば)全体として一つの怪我とみなされる。

筋痙攣の場合は、選手はエンド交代時又はセットブレイクの時間内に限り処置を受けることができる。筋痙攣の処置でMTOは与えられない。

→学生トレーナーしかいない試合では、体力的な問題による筋けいれんなのか、熱中症による筋けいれんなのか判断できないため、全て熱中症によるものとみなし、一度だけMTOを取ることを認める。

同時に2カ所以上に怪我を負った場合は、あるいは体調が悪くなって同時に怪我もした場合は、レフェリーの許可を得れば、2回続けてMTOを取れる。ただし、トレーナーは2回連続のMTOを取るかどうかを1度の診察で判断しなければならない。

(2) メディカルトリートメント (MT)

選手はエンド交代時(90秒)、セットブレイク(120秒)の時間内に手当を受けたり、ドクターから医薬品を受け取ったりできる。**MTは1試合につき部位にかかわらず2回までであればMTOの前でも後でも取ることができ、その2回は連続するエンド交代時でなくても良い。ただし手当のできない症状の場合には、メディカルトリートメントは適用されない。**

(3) MTOとMTの併用について

MT0、MT、トイレットブレイクに関しては、一回のエンドチェンジもしくはセットブレイク時にどれか一つのみを選択するものとする。(トイレットブレイクはセットチェンジ時のみ)

Aチームがセットブレイク時にMTOもしくはトイレットブレイクを取り、BチームがMTを取ったとする。この際に、AチームのMTOもしくはトイレットブレイクがMTの時間内に終わらなかったとしても、BチームのMTがAチームのMTOまたはトイレットブレイクに合わせて処置時間が延長されることはない。

→チェアアンパイアは、MTに対し、60秒もしくは90秒でタイムをかけることとする。

メディカルルールの運用に当たり、1部リーグでは原則的にオフィシャルトレーナーを用意しているため、それ以外の者が診察や治療に参加することは出来ない。（オフィシャルトレーナー不在の場合、事前にトレーナー登録をした者に限り、治療に参加できる。）

2部以下では予めトレーナーとして登録された者のみ選手の治療に参加することが出来る。（治療時間はSCUが計測するものとする）

12. 物資の供給

物資の供給は、必ずコートレフェリー（不在の場合：質疑権所有者）を介してコート内に供給すること。

12. 審判の形式について

審判形式はソロチェアアンパイア（SCU）とする。

しかし、人員が足りていない場合は、セルフジャッジとする。

片方の学校の人員が足りていない場合は、両校で話し合い、人員が多い方の学校が相手校の代わりにSCUを入れても構わないが、公平性を保つためにセルフジャッジを推奨する。

SCUがあまりにも自校の有利になるように進めていたり、SCUとしての振る舞いが著しく出来ていない場合は、同校の別の部員のみ入れ替えることが出来る。変更する場合は、事前に知らせてある緊急連絡先の学連に電話でその旨を伝えること。

13. 結果報告用紙について

事前にエクセル形式で送っている結果報告用紙に、その対戦の勝校が当日中に提出すること。

kansaiagakusei.tennis@gmail.com又は、ラインでも構いません。

14. ヒンダランスについて

プレー中にチーム(プレーヤー・応援)が故意に、又は不本意に相手を妨害する行為を行った場合にコールする。故意は失点、不本意はレット。2回目以降は失点。

コート外からの妨害の訴えは両プレーヤー・両校のベンチコーチが出来る。

※コート外からの応援による妨害は応援に対するコードバイオレーションも取る。

※コート外からヒンダランスを指摘してプレーを止めた場合は、故意による妨害とみなし失点となる。

妨害を認識しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害とみなされない。(ポイントは有効)

※妨害の訴えは両校プレーヤー・両チームが出来る、とルールブックには記載されているが、プレーヤー・ベンチコーチのみ可能とする。上記以外の応援がコールすることは認めない。

15. アップについて

2部から5部のアップについて。

オンコートアップを行うのであれば、両校で話し合っオンコートアップの時間を決める。ただし、オンコートアップを行うのであれば、試合開始時刻に影響が出ないようにすること。試合開始は10時である。

オンコートアップを行わない場合、プラクティス時間以外のオンコートアップは、禁止。

オンコートアップとは、コート内でラケットを使用しないアップのことである。ただし素振りを除く。

コロナ対応について

大会開始10日前以降及びリーグ期間中(入れ替え戦終了まで)に自校にコロナ陽性者が出た場合

1. 速やかにコロナ感染報告用紙(陽性者及び濃厚接触者)を学連にメールで提出すること
連絡は kansaiagakuren.covid@gmail.com にするようにしてください。

※陽性者には自宅待機期間を、厚生労働省ホームページ記載のガイドラインに従って記載すること

※濃厚接触者は厚生労働省の基準をもとに各大学の判断に任せるが、大会開始後はダブルスのペアは必ず含まれる

2. 試合当日朝9時までに、抗原検査もしくはPCRの、少なくとも**出場選手全員の陰性証明**及び**濃厚接触者の結果**をメールで送る

※陰性の証明書は、写真をメールに添付して送るようにしてください。

その写真は 名前、日付、陰性であることが分かるような写真にしてください。

3. 学連が陰性を確認した上で、はじめて当該大学のリーグ戦の出場が認められる

※陽性者は自宅待機期間終了後に、濃厚接触者は陰性が確認されれば、会場への来場及び試合出場を認める

期限内に学連に2のメールを送らなかった場合は、以下のペナルティを与える。

試合当日朝9時までに送らなかった場合、練習コート開放なし

試合当日朝10時までに送らなかった場合、全試合没収

2のメールに記載のない(陰性証明のない)選手が出場した場合は、以下のペナルティを与える。

その選手がその日に出場した試合を没収

大会終了にコロナ陽性者が出た場合

速やかにコロナ感染報告用紙(陽性者及び濃厚接触者)を学連にメールで提出すること
連絡は kansaiagakuren.covid@gmail.com にするようにしてください。

コロナ感染対策について

以下の事項を必ず来校前に相手校と確認すること

- ・ 観客（部員・監督・コーチ等を含む）の有無、及び人数制限
- ・ OB・OGや一般観客の来校を認めているか
- ・ 声出し応援の有無（マスクの着用義務の有無）
- ・ 相手校への提出書類の有無

等

ただし、試合中及び試合前プラクティスでの連呼および応援歌については、感染防止の観点から**全会場禁止**とする

また、円陣はマスク着用して行うことを強く推奨する

入場の認められていない人が来校し、且つ学連または部員の注意を受けたにも関わらず退場しない場合、ペナルティを課す場合がある